

「文芸倶楽部」小説総目録

その一（明治28年～30年）

山根賢吉編

周知のように「文芸倶楽部」（明治二十八年一月創刊、昭和八年一月廃刊）は、博文館発行の文学雑誌であり、特に明治

時代においては代表的な文学雑誌であった。ただし、その目録ははまだ作成されていない。雑誌・雑報の類を入れると膨大なものになるので、今回は小説のみに限って分載することにした。小説の題名は目次により、目次の題名と内題とが違っている場合、漢字の相違、漢字とかなの相違などはいちいち注記せず、明らかに目次が誤っていると考えられる場合のみ（注）に記した。作品の下欄の数字はその頁を示し、（注）は前記したもののほか、私見により何らかの参考になると思われる事項についても記した。本目録の作成にあたっては、架蔵誌のほか、日本近代文学館及び国立国会図書館蔵誌によった。

第一編（明治28年1月25日発行）

大さかづき	眉山	人	1	34
鈴桃海鶴	南翠外史	人	35	41
どろく姫	小尾松崎紅秀葉	作問	42	68
古榎	霞亭主人	人	69	100
たから島	ロバート・エル・スチウンソン原作 卯の花庵主人抄訳	訳	100	191

（注）最初に次のようにある。

じよぶん
文芸倶楽部畧則

大日本文芸倶楽部名簿書記
思案外史
全 倶楽部名簿畧則
瀧山人

第二編（明治28年2月25日発行）

色風琴	瀧山	人	1	21
-----	----	---	---	----

花笠	女画	榎長	山家	五	跛
奴	師	者	水	月	娘
奴	乙	柴	田	須	く
浜	羽	田	山	藤	れ
太	庵	千	花	南	が
郎	主	稲	袋	翠	し
	人	子			
138	112	81	68	42	21
173	137	112	80	67	42

(注)「和歌」欄に次の歌がある。

柳 東京 大塚楠緒子
 「春風に繰りかへしつゝ、その上を語り顔なる背柳の糸」

第三編 (明治28年3月25日発行)

新作	赤十	新作	諸分	世話	新作	新作
二時	字	唐撫	覚	女房	幸福	たから
思	乙	子	帳	二	樹	島
案	羽	笠	霞	橋	松	島
外	庵	園	亭	生	居	島
史	主	主	主	人	松	島
1	19	28	104	110	124	141
18	27	104	110	123	140	159

ロバート・エル・スチウンソン原作
 卯の花庵主人抄訳

第五編 (明治28年5月20日発行)

阿	千	代	山	田	美	妙	斎
た	か	ら	前	田	曙	山	
島	島		前	田	曙	山	
39	117	135	117	135	136	151	158
116	135	151	151	158	172	172	172

(注)「雑録」欄に「花がたみ 在京城 鉄幹」がある。

第六編 (明治28年6月20日発行)

外	科	室	泉	鏡	花
人	科	室	泉	鏡	花
乙	羽	庵	主	人	
76	14	1	1	13	
97	76	13	13		

第四編 (明治28年4月20日発行)

夜	母	運	う	敵	経
營	の	つ	味	づ	づ
曲	写	せ	方	く	く
	真	貝	冥	ゑ	ゑ
			土		
			出		
			会		
美	南	露	梅	一	
妙	新	葉	痴	葉	
斎	二	士	居	女	
主	二	史	士	史	
人	二				
150	145	136	120	107	97
172	150	144	135	119	106

第七編 (明治28年7月20日発行)

新	壯	水	み	ま	医
浦	士	車	じ	は	学
島	役	小	か	り	修
	者	屋	夜	燈	業
				籠	
幸	滝	田	松	南	い
田	山	山	居	新	な
露	花	花	松	二	ぶ
伴	袋	袋	葉	女	ね
				史	女
					史
1	51	91	126	141	149
50	91	126	140	149	170

第八編 (明治28年8月20日発行)

水	風	児	思
雷	流	守	の
士	武	唄	家
官	士	散	人
背	曙	霞	採
軒	山	亭	菊
居	山	主	散
士	人	人	人
1	27	31	60
27	30	59	78

第九編 (明治28年9月20日発行)

黒	委	新	に	老	た	全
船	薄	聞	ご	書	の	(「虫声入琴」筆者注)
遅	命	中	り	生	む	全(「懸賞披露」)の中に、
塚	命	政	え	戸	木	露しけき葎か宿の琴の音に秋を添へたる鈴むしのこゑ
麗	命	治	え	川	蔭	がある。周知のように、品子の作品中、最も古いものである。
水	命	家	え	残		
	命		え	花		
	命		え			
1	27	38	116	148	142	147
26	37	116	142	158	147	158

第十編 (明治28年10月20日発行)

女	当
房	世
殺	大
し	縮
	尻
江	関
見	梅
水	痴
蔭	居
	士
1	35
35	57

よしやあしや 饗庭篁村 57 { 83
 鉄 窓 桐生愈膚 83 { 98
 緊急問題 左川外史 99 { 109
 夏 む し 東松露香 110 { 131
 忠孝二筋道 二橋生 132 { 157
 当世記者気質 武田仰天子 158 { 179

(注)「緊急問題」は、内題には「左川外史翻案」とある。

第十一編 (明治28年11月20日発行)

蛭 旦 那 山田美妙齋 1 { 30
 我 か 罪 それ が し 30 { 42
 蒔 か ぬ 種 饗庭篁村 42 { 72
 角 思 案 外 史 73 { 91
 奇 小 杉 天 外 92 { 108
 小 桃 源 田 山 花 袋 108 { 137
 邸 子 花 渡 辺 黙 禪 137 { 177

第十二編 臨時地刊 闊秀小説 (明治28年12月10日発行)

萩 桔 梗 花 圃 女 史 1 { 25
 わすれがたみ 若松賤子 25 { 34

十三 三 夜 一葉女史 34 { 51
 黒 眼 鏡 薄氷女史 51 { 71
 暮 ゆ く 秋 大塚楠緒女 71 { 78
 村 時 雨 簪花女史 78 { 90
 片 時 雨 ゆ かり女史 90 { 104
 し ろ ば ら 稲舟女史 104 { 149
 手 箱 の 内 藤島雪子 149 { 164
 刷 毛 彩 色 石樽わか子 164 { 179
 名 替 夫 人 小金井喜美子 179 { 189
 や み 夜 な つ 子 190 { 214

(注)「わすれがたみ」及び「名替夫人」は翻訳。

第十三編 (明治28年12月20日発行)

風俗小説京の猫 三宅青軒 1 { 72
 人 の 命 松居松葉 73 { 89
 喇 叭 卒 小 杉 天 外 89 { 95
 葛 の う ら 葉 小 倉 山 人 95 { 107
 帝 の 煎 功 中 島 逐 波 107 { 114
 迷 子 札 猪 波 晚 花 114 { 134
 当世記者気質 武田仰天子 135 { 153

第二卷第一編 (明治29年1月10日発行)

辨内侍	学法居士	1	15
峯の白雲	三味道人	15	67
伎々々	藤陰隠士	67	109
酒乱	幸堂得知	110	150
時雨傘	南新二	151	158
豊水練	三遊亭四朝進 酒井昇進 演	159	167

第二卷第二編 臨時増刊 青年小説 (明治29年2月10日発行)

化銀杏	泉鏡花	1	42
改良若殿	小杉天外	43	84
可憐児	三宅青軒	85	122
仲左	桐生愈膚	123	139
無名草	田山花袋	139	156
ありのすさび	後藤宙外	156	198
すみれの花束	太田玉著	199	213
看護婦	小栗風葉	213	220

第二卷三編 (明治29年2月10日発行)

悪因縁	桜痴居士	1	15
断流	田山花袋	16	73
今様水鏡	南翠外史	74	144
残念	上村左川	144	168
鎗持勘助	乙羽庵	168	171
峰の残月	美稲舟香 女史 主人 合作	171	190

第二卷第四編 (明治29年3月10日発行)

保険娘	麗水生	1	31
若白髪	山田美妙斎	31	67
片輪児	黒田天彦	68	100
猫間扇	柳鳩亭寅	101	113
うきよのあらし	深雪女史	113	123
歳暮賽日	南新二	123	133
朝鮮太平記	松居松葉	134	177
泥水清水	江見水蔭	1	27
秘妾伝	島芋之助	29	51
朝鮮太平記	松居松葉	51	86

第二卷第五編 (明治29年4月10日発行)

当世識士伝 くらさひで 86 131 93
 たけくらべ 樋口一葉女史 94 131
 むらくも 有本樵水 131 143
 当世記者気質 武田仰天子 143 164

第二卷第六編(明治29年5月10日発行)

われから 樋口一葉女史 1 29
 養蜂壺 二十三階堂 29 38
 似ぬもの 思案外史 39 51
 断腸 太田玉茗 51 63
 流行病 くさひで 63 69
 乳母 北田薄氷女 70 91
 男の腕 乙羽庵主人 91 161
 一之巻 泉鏡花 162 181

第二卷第七編(明治29年6月10日発行)

村の名物 小杉天外 1 56
 危い処 水谷不倒生 57 72
 東髪娘 石橋忍月 72 106
 小町湯 田沢稲舟女 107 122

離緑状 山岸蓼鶯 122 138
 羽抜烏 小倉山人 138 149
 明月 長田蕙香女 150 154
 二之巻 泉鏡花 155 175

第二卷第八編(明治29年7月15日発行)

今戸心中 広津柳浪 1 57
 東髪娘 石橋忍月 57 93
 不平鬼 渡辺黙禪 93 124
 萩の花 武田桜桃 124 133
 無惨 石榑わか子 133 142
 理想佳人 水谷不倒生 142 158
 しきなみ 内田不知庵 159 174

(注)「理想佳人」は、内題に「水谷不倒生訳」とあり、「シヤ、ロット、フロンテ小伝」と「ジェーン・エール」の(一)の訳である。

第二卷第九編 臨時増刊 海嘯義捐小説(明治29年7月25日発行)

永仁鎌倉の変 依田学海 3 10
 大洪水 村井弦斎 28 31

千紅万紫	長坊	磯浪	車の上	片男波	雨の日ぐらし	笛の音	おきく	風流鴨	磯の嵐	高潮	電報	すゝく(すほとくきす)	いつまで草	權平	電信	秋の空	道の芝	鴻をなみ	やまと健男
川上眉山	広津柳浪	江見水蔭	石橋思案	小栗風庵	内田魯庵	塩井雨江	無名氏	大町桂月	戸川秋骨	小金井喜美子	三宅花圃	樋口一葉	大塚楠緒	佐々木雪子	石樽青苔	北田薄水	田中夕風	宮沢すみれ	依田柳枝子
32	34	45	57	68	72	75	86	100	108	112	113	118	120	127	132	138	145	160	166
34	45	57	68	72	75	85	100	106	111	113	118	120	126	131	137	144	159	166	167
忘れがたみ	破れ蓮	剣影鬼	三日風流	一夜のうれひ	あまごひ物語	新開紙	人殺し	古器物店	函嶺の古道を度る記	水冥篇	男禁制	乙女制	破靴	泡沫	浮寝	神の裁	意の外	つなみ	退院患者
中村田鶴子	星野天知	戸川残花	平田秃木	田山花袋	星野露葉	条野採菊	半井桃水	松原廿三階堂	遅塚麗水	原抱一庵	武田仰天子	松居松葉	山岸蓼鶯	三宅青軒	太田玉茗	柳川春葉	堀内小倉	有本樵水	大沢天仙
167	170	183	188	194	204	210	220	224	227	234	238	240	243	246	249	250	254	257	261
170	183	188	204	206	213	222	224	227	234	237	240	243	246	248	250	254	256	261	266

剽竊暗合 伊原青々團 266
 海嘯だく 堀内蘂兵衛 267
 浄曲八重垣 大槻如電 272
 鮫 巖谷小波 276
 ポンペイ大地震記 柳川綱齋 282
 砂の宮 泉鏡花 284
 中禪寺の一日 奥薇陽 291
 厄払ひ 徳田秋声 293
 盆踊 宮沢春文 295
 火と水 大橋乙羽 298
 (注)此の編は、「小説」「雑録」「詞筵」などの区別なく、
 作品が並べられているので、詩歌・短文・海嘯実話などを除
 いて大部分をあげた。なお、「水冥篇」はユーゴーの「哀史」
 中の一部の翻案である。

第二卷第十編(明治29年8月10日発行)

井字橋 武田仰天子 1
 後廼残月 山田美妙 28
 紅葉狩 前田曙山 40
 菼かうじ 徳田秋声 78

大洪水 松居松葉 94
 野ぎく 太田玉茗 117
 敵討 渡辺霞亭 126
 三日坊主 今川仏魔 155
 はしがき 緑雨醒客 155
 三之巻 泉鏡花 164
 (注)「大洪水」は、ゾラの作品の訳。「はしがき」は「三日
 坊主」の「はしがき」で、目次は順序を誤ったもの。

第二卷第十一編(明治29年9月10日発行)

寝白粉 小栗風葉 1
 新聞売 佐々雪 19
 うらわの波 星野露葉 41
 浮末沈 幸堂得知 47
 断末魔 桐生愈虐 106
 手斧痕 鶴沢四丁 128
 新絹文反古 水野醉香 138
 理想の佳人 水谷不凋 150
 四の巻 泉鏡花 162
 (注)「理想の佳人」は翻訳で、第二卷第八編の続稿。「雑

録」欄に、「まぼろし いなぶね女史」(201〜203)がある。

第二卷第十二編(明治29年10月10日発行)

給廻	嵯峨の屋	1	23
里見元勝	山田美妙	23	35
深なさけ	武田仰天子	35	54
迷宮物語	卯の花庵	54	90
狐狩臙臙譚	藤陰隠士	90	123
やどり木	渡辺霞亭	123	155
理想佳人	水谷不倒生	156	173
五之巻	泉鏡花	174	183

(注)「序」は、内題に「巻に名くる辞」とあり、頁数は記されていない。

第二卷第十四編(明治29年11月10日発行)

いのり首	山田美妙斎	1	60
五大堂	田沢稲舟女史	60	80
雲のゆくへ	太田玉茗	81	110
やどり木	渡辺霞亭主人	145	178
理想の佳人	水谷不倒生	110	144
六の巻	泉鏡花	178	189

(注)「目次」では右のようになっているが、「やどり木」と「理想の佳人」は順序が顛倒している。

第二卷第十三編 隨時増刊 小説六佳選(明治29年11月3日発行)

序	尾崎紅葉	1	23
龍潭譚	泉鏡花	24	40
蝶ちやん	小杉天外	41	80
ひと吹風	中村芙蓉楼	81	127
浅瀬の波	広津柳浪	128	152
失恋詩人	小栗風葉	153	177
夫婦順礼	江見水蔭	174	183

第二卷第十五編(明治29年12月10日発行)

変目伝	広津柳浪	1	71
睡美人	嵯峨のや	71	106
狐狩臙臙物語	藤本藤陰	106	136
合作十二ヶ月	海業	181	187

(注)「合作十二ヶ月」の内訳は次の通りである。

一月―緑野雨成 二月―餅阿弥 三月―蟹廼家 四月
 浜三人 五月―ねも 六月―太郎坊 七月―和唐内
 八月―かはづ 九月―夢中作左衛門 十月―ねも吉
 十一月―蝶園 十二月―塙暮内

第三卷第一編(明治30年1月10日発行)

伽羅物狂	巖谷蓮山人	1	40
白桔梗	小杉天外	41	58
塵の身	後藤宙外	59	89
誓の巻	泉鏡花	90	104
葛城橋	江見水蔭	105	157
千鳥ヶ淵	石橋思案	158	170
非国民	広津柳浪	171	211

(注) 卷末に「文芸倶楽部第二卷目一編総目次」がある。

第三卷第二編臨時地刊第二閣秀小説(明治30年1月20日発行)

一沈一浮	中島湘煙	1	7
心づくし	小金井喜美子	8	13
深雪	塩井白魚	14	38
女波男波	三浦千鳥	67	69

やれかゝみ	石樽わか子	69	91
子煩悩	田中ゆふ風	92	101
白髪染	北田薄水	102	127
かへ玉	藤井ゆかり	127	136
小公爵	薄花	38	66
うたかた	穂積ふし	136	144
さよ嵐	秋山露子	144	150
初恋	長田蕙香	187	229
心の鬼	紫琴	150	178
しのび音	大塚楠緒	178	186
蛇物語	花圓	229	235
ローレンス	若松	241	265
唯我独尊	稲舟	265	278
うつけみ	一葉	279	289

(注) この編も「目次」の順序と異っているものがある。

「小公爵」は「深雪」の後に、「初恋」は「しのび音」の後に
 なっている。なお、「女波男波」は内題では「男波女波」となっ
 ており、「小公爵」の作者名は内題では「米国マッケンジー女
 史原著」となっている。最後の三編は、すでに故人となった作家の
 作品の再録で、「第二閣秀小説大附録 忍ぶ草」となっている。

「ローレンス」の作者名は、内題では「インヂェロー作」とある。

第三卷第三編(明治30年2月10日発行)

鹿子	綾	川上	眉山	山人	1	10
中世	武士	嵯峨	の	や	11	22
人	ごろし	菊池	幽	芳	23	44
趙遠	昌	前田	曙	山	45	64
たかせ	川	山田	美妙	斎	65	102
吉田	松陰	関	梅痴		103	136
唯我	齋藤	緑	雨		137	158
戦塵	内田	不知庵			159	199

(注)「戦塵」はゾラ作の翻訳。「雑録」欄に「ゾラ『戦塵』の後に書す。不知庵生(200)がある。

第三卷第四編(明治30年3月10日発行)

かさね	妻	繁野	天来	1	56
室咲	南瓜の花	幸堂	得知	57	77
おと	び	馬場	孤蝶	78	86
墮落		三宅	背軒	87	151

花の復讐	太田	玉茗	152	156
一花一輪	柳川	春葉	157	165
先日生	小杉	天外	166	184
朝日影	高瀬	文淵	185	193

(注)「かさね妻」は内題には「重ね妻」とあり、「おとび」の作者名は内題では「トリーター作」、「花の復讐」の作者名は「あんてるせん作」とある。

第三卷第五編 臨時増刊 小説八家選(明治30年4月1日発行)

夢がたり	二葉亭	四迷	1	23
薩摩心中	天囚	居士	24	36
開運札	二十三階堂	主人	37	52
心づくし	小金井喜美子		53	96
悪の善	美妙斎	主人	97	113
当世外面	露伴	子	113	136
百鬼行	緑雨	醒客	137	151
恋のぬげがら	紅葉山	人	152	190

(注)「夢がたり」の作者名は、内題では「イー、エス、ツルゲー子作」とあり、「恋のぬげがら」は、内題では「恋の鏡」とある。

第三卷第六編(明治30年4月10日発行)

孫右衛門	山田美妙	1	55
浦島	採菊山人	55	74
五彩雲	太田玉茗	74	92
鋸びき	藤陰隠士	93	109
お高祖頭巾	梅島涼葉	110	127
暗黒店	大沢天仙	127	137
夕月夜	高瀬文淵	137	167
花のつま	松居松葉	168	191

(注)「五彩雲」の内訳は、「其一 観面(ぼつかしをし作)」

「其二 たらちね物語(あんでるせん作)」「其三 名ごりの花(ぼつかしをし作)」「其四 雛菊(あんでるせん作)」「其五 夢のうつ、(ぼつかしをし作)」で、いずれも太田玉茗訳である。

第三卷第七編(明治30年5月10日発行)

夏のむし	大橋乙羽	1	43
改良奥様	小杉天外	44	69
葛の裏葉	紫琴女史	70	91

した、たか者 岸上 質軒 91

九十三 年 卯の花 庵 118

春の一日 柳井 網斎 160

堅パン 泉鏡花 170

(注)「した、か者」は、その冒頭に「諾威の文豪ヘンリッ

ク、イブセンの最近の作にして、原題して「ジャン、ガブリ

エル、ボルクマン」といふ」とあり、「九十三年」は、内題

には「巴里の屋根裏の儒者」の一節」とあり、作者名は

「ウキクトル、ユーゴー者」とある。

第三卷第八編(明治30年6月10日発行)

新潮来曲	江見水蔭	1	91
狗侍	岡本狂綺堂	92	106
九十三 年	卯の花 庵	106	131
のこり物	斎藤 緑雨	132	154
めぐりあひ	太田 玉茗	154	160
風流蝶花形	泉鏡花	160	183

(注)「のこり物」は、内題には「のこり草」とあり、この方を正しいとすべきであろう。「めぐりあひ」の作者名は、

内題では「ボツカシイ作」とある。
太田玉若「訳」とある。

第三卷第九編 臨時増刊 柳北全集 (明治30年7月9日発行)

澤上隠士伝	1	1	2
和文	2	1	7
雑文	7	1	121
紀行	121	1	220
雑著	220	1	282
漢文	282	1	298
詩鈔	299	1	326
歌鈔	326	1	330
年譜	331	1	332

(注) この編には小説はないが、一往目次を掲げた。「柳橋新誌」「柳橋新誌二編」「京猫一班」などは、「雑著」の中に収められている。

第三卷第十編 (明治30年7月10日発行)

軽業師	1	1	53
小杉天外	1	1	53
宝窟奇譚	54	1	143
幸田露伴	54	1	143

花井真吉 上村左川 143
 二股城 依田学海 160
 (注) 「宝窟奇譚」の作者名は、内題では「幸田露伴合作」とある。

第三卷第十一編 (明治30年8月10日発行)

夏虫	半井桃水	1	80
源叔父	国木田独歩	80	95
花井真吾	上村左川	96	121
逸学生気質	鉄学士	122	153
このてがしは	中谷無涯	153	190

(注) 「逸学生気質」は「序」(霞山人)によれば、「グレゴロー原作」とあり、(はしがき)中に「Die Saxo-Saxnen von Samar Greogrone」とある。

第三卷第十二編 (明治30年9月10日発行)

七騎落	広津柳浪	1	42
自縄自縛	幸田露伴	42	108
逸学生気質	鉄田学士	109	121
陶器画工	武田桜桃	122	134

若 武 者	京 藤 緑 雨	135	139
若 葉 の 露	山 田 美 妙	140	147
関 東 男 児	矢 崎 嵯 峨 の や	147	154
演劇 明治四十年	関 梅 癡	154	168

第三卷第十三編 (明治30年9月25日発行)

五世 海戦未来の夢	1	215
日米開戦未来記	216	259
海 軍 一 班	260	272

(注)「五世海戦未来の夢」は内題に、「原名「マリローズ号の艦長」とあり、作者名は「米国海軍学会ダブルユト、レーヤード、クローズ原著」とあり、「日米開戦未来記」の作者名は内題に、「米国海軍大尉ハミルトン作 米国文学士 岡田 竹溪訳」とある。

第三卷第十四編 (明治30年10月10日発行)

絃 声	川 上 眉 山 人	1	30
晚 桜	薄 氷 女 史	31	56
少 年 詩 人	根 本 吐 芳	57	69
鬼 退 治	武 田 仰 天 子	70	89

(注)本編の巻頭に「脚本」欄を設け、福地桜痴居士の「夜

の鶴」(内題「新作 夜の鶴」)(112)が掲載されている。「小説」欄は改めて1頁から始まっている。

第三卷第十五編 (明治30年11月10日発行)

残 雪	三 宅 青 軒	1	40
浜 び さ し	大 塚 楠 緒 女 史	65	82
散 浮 く 花	岸 上 質 軒	83	126
化 辨 天	無 名 氏	127	133
江 戸 川 心 中	繁 野 天 来	134	160

(注)「目次」冒頭の「脚本」欄には、「十一月歌舞伎座 七笑 福地桜痴居士」と記されているが、これは「残雪」の後41頁から62頁にわたって掲載されている。

第三卷第十六編 (明治30年12月10日発行)

解 題 目	泉 鏡 花	1	67
か た 帆	田 山 花 袋	68	112
猫 替 提	関 梅 癡	113	140
こ し か た	小 松 蘭 雪	140	153
心 字 香	渡 辺 黙 禪	153	170